

第一地区では、大規模災害時等に隣接する町会が協力し合う体制づくりをめざして、地区内を5ブロックに分けて様々な活動を行っています。

第3ブロックの新伊勢町、神明町、国府町の3町会では、まずは顔合わせと親睦を図ろうと、11月30日のお昼に交流新蕎麦会をMウイングで開催しました。

老若男女50人ほどで会場は賑わっていました。特に子ど



もが多く、祖父母や若いお母さん、お父さんと連れ立って参加し、孫を抱いてニコニコのおじいちゃんが印象的でした。三世代連れ立って楽しんでいる様子は最高です。

蕎麦の出る前に中央保健センターの保健師による「お口の体操」がありました。文字通り口や舌の運動で、特に唾液の出しがよくなり、健康に良い体操とのこと。簡単にでも実際に唾液分泌が刺激され食欲も旺盛になります。

「まだー」という子どもの催促の声に促されて、いよいよ大皿で蕎麦が登場。卓上に

「最初に翡翠蕎麦をどうぞ」と田中町会長が話し、「長野県で開発された新品種で珍しく、買ってきました。」とのことでした。実際、翡翠色がかった香ばしい蕎麦でした。

続いて田中町会長自ら栽培した新蕎麦が振舞われまじますが、玄人超えの味わいでした。(参考に、蕎麦湯も濃厚でした。)文字通り食べきれない量の蕎麦が出され、特に子ども達の食欲が気持ちはいい蕎麦会でした。最後にデザートのパンケーキが全員に配られ、子ども達にはバナナのおまけもあり、サイコーの会だったと言えますね。

蕎麦の打ち手は神明町の田中町会長で、蕎麦は自分で栽培したものを提供し、大根も自家栽培とのことでした。神明町の人たちは幸せですね。

柿や漬物なども置かれ、蕎麦つゆの薬味に辛味の強い牧大根やネギがどっさり用意されていました。



柿や漬物なども置かれ、蕎麦つゆの薬味に辛味の強い牧大根やネギがどっさり用意されていました。



令和2年1月1日現在
世帯数 : 804世帯
人口 : 1475人
男 : 716人
女 : 759人

Presented by
視聴覚委員会

まちかどフォト



「みんなで餅つき」
70人程が参加し、恒例の餅つき大会が12月7日(土)に開催されました。



「松本駅にサンタクロース登場」
12月19日(木)の夕方、フィンランドからサンタクロースがやってきました!

第一地区の 老舗をたずねて

第四十六回：

アサカワ印刷株式会社
(本町5丁目)

元禄6年、浅川家の初代が誕生して約170年後、12代浅川新平が様々な雑貨を扱う荒物屋を「檜物屋」の屋号で本町に創業しました。

明治の変遷により明治43年14代浅川源一郎(明治19年生)が本町5丁目、浅川石版印刷所を創業することになりました。

昭和10年、15代浅川靖市郎(明治43年生)が事業を継承し、手動による印刷方法からスピード化された動力の印刷機を導入しました。

昭和13年、浅川一光舎印刷所と改称。昭和16年第二次世界大戦が始まり、物資不足から印刷機の供出を促されましたが、幸いにも大戦中の統制経済に残存事業所の指定を受けることにより印刷業を続けられることになったのです。

戦後の昭和24年、株式会社法人組織となり石版印刷に併せてオフセット印刷を始めます。印刷の版材が石からアルミへと順次変化してゆきました。初代社長となった靖市郎は、昭和32年活字を版材とする活版印刷を開始します。時代の流れと共に近代化が進みました。手作業に頼った印刷機械操作の完全自動化が完了したのです。



昭和40年 (本町5丁目)

当社印刷のポスター、日本アルプス、が全国観光ポスターコンクールで優勝するなど数々の輝かしい成果をあげることができました。

昭和43年アサカワ印刷株式会社に改称。昭和45年新産業都市指定により、松本駅周辺土地区画整理事業が浮上しました。

本町5丁目の工場も20%近い土地を無償提供との話が持ち上がり、市側からの勧めもあり野溝木工(木工団地)に新社屋工場を完成させ移転することになったのです。

県下で初めて、世界に誇るドイツローランドオフセット

第5回ふれあいまつり & 第一地区公民館・福祉ひろば周年事業

地区の総合文化祭『第5回ふれあいまつり』を開催します。

今年は、第一地区公民館開館10周年と福祉ひろば開館20周年を祝う周年事業も行いますので、ぜひご参加ください。

【日時】 令和2年3月7日(土) 10:30~13:20
【会場】 Mウイング6階 ホール
【内容】 周年事業(功労者表彰式、記念演奏会)、
 作品展示、ステージ発表、ビンゴ大会
 にこにこ会食会(お弁当をご用意します)

会場設営の都合上、参加を希望する方は、事前に申込みをお願いします。

【問合わせ】 第一地区公民館 ☎32-1550

4色刷印刷機を導入、カラー写真印刷の高品質化とスピード化に成功しました。

昭和58年、16代の雅史(昭和16年生)が、三代目社長となり松本商工会議所議員、そして印刷業界の発展に尽力したことが認められ、松本市有功者表彰並びに長野県知事表彰受賞。平成5年には、創業以来100年以上事業を継続し地域の発展に貢献したことが認められ「信州の老舗」として長野県知事より表彰を受けます。

これを期に17代貴央(昭和45年生)が四代目の社長になりました。増々スピード化した



現在の工場 (木工団地)

浅川 雅史

てゆく印刷業界、お客様からの要望に応えるべく設備投資に邁進する毎日です。

なお、本町5丁目は現在営業所として利用しています。

電車通り

町内公民館長会にて政教分離と文化について話が出ました。

昔、子どもの遊び場と言うとお宮、お寺、広場で遊んでいることが多く、行事と言うとお宮の出店の賑やかさが思い出されます。お宮で行っている行事で、舞台の正面に乗りたいたいというのが子どもの夢もありました。

旧市の舞台18台は「松本城下町の舞台」として、市の重要有形民俗文化財に指定されています。

文化財の多くは宗教から端を発しています。しかし舞台は、城下町の町民の心意気により作られたのではないかと考えます。

現在、舞台を格納している舞台庫は昭和以前の建設で耐震化の問題と共に老朽化が激しく、建替えの時期を迎えています。しかし、政教分離が声高に叫ばれている事もあり、また現在の町会では世帯数も減り、自前での資金調達も非常に困難となつて頓挫しています。

是非とも市の援助がないと、舞台庫の建設計画は風前の灯です。

文化財の保存のため何が出来るか、検討を願うものであります。